

第1編(基本方針)について

- 委員
- 新たに路面電車を伸ばすことによって、他の交通を圧迫する問題も裏側にある。今、路面電車を見直して下さいと言うことができる段階ではないと思っているが、この委員会の中で再度検討してほしいという声があったことは留めておいてほしい。
- 事務局
- 第2編の中でも検討していくということに留めており、意見を踏まえてさらなる検討を深めていきたい。
- 委員
- 札幌は自然豊かなまちなので、美しい車両(路面電車)が入って景観も良いとされているが、今の札幌のまち並みでいいのではないか。人工的なものを入れるのではなく、現状あるものを充実させるのがよいと思う。
- 委員
- 高齢化に対応して電車でも何でも乗り物はバリアフリーにして、環境を考えながらあまり人工的にするのではなく、優しく変化させていく方が良い。
- 事務局
- 路面電車についてはバリアフリー車両の導入も大切だと考えている。一方で、老朽化した電車を更新するには費用がかかり、将来にわたって公共交通をどうしていくかという考え方に立つ必要があり、現状並びに将来的な視点で考えていきたい。
- 委員
- 市長公約と路面電車との関係はどうなっているのか。
 - 交通に関するコミュニケーションの話は交通戦略に含まれるかわからないが、例えば、軌道系と違いバスはどこを走っているのかなかなか分からない。大通の証明書センターで観光関係のマップを配布していたので、バスマップもできるのではないかと感じた。
- 委員長
- 基本方針の中に、モビリティマネジメント(MM)的なものを少し盛り込んだ方が良くもしいない。
- 事務局
- 4年間で実現したいことを「うえだの約束」として発表されているので、着実に進めていくということになると思うが、整理しなければならないこともたくさんあるので、あるタイミングできちんと発表され、実現されていくというステップになると思う。
 - MMについては、第1編で過度な自動車依存からの脱却という箇所があり、この中で発信の仕方を工夫したい。
- 委員
- 最近、バイクの交通事故が多いため、どこかにバイクについて触れた方が良いと感じた。
 - 災害時の交通網の考え方について教えてほしい。
-

-
- | | |
|-----|---|
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none">● 地域防災計画の中で、緊急輸送路というものを定めている。札幌市の担当部局として危機管理対策室があるので、そこを中心に各部局が連携して進めている。● 東日本大震災を契機として、さらに見直さなければならない視点もあるかもしれない。交通に関わる分野として、そこに何か書き込むことになるかどうかは検討していく。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none">● 札幌の都市の魅力の一つは景観であり、景観を意識した交通網のあり方を加えると、交通を利用する方の楽しみの目線も広がるのではないかと感じた。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none">● 現状と課題の書き込み（P 65 -66）が、まだ足りないと感じる。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none">● コンパクトシティと居住地などの拠点のまちづくりの考え方で、対象範囲が違うためディメンションが違うのかなという印象がある。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none">● 市内には、都心や広域交流拠点・地域中心核など様々あるが、それぞれの拠点で身の丈に合わせた大きさを質的な改良を行っていくものであり、大中小といった大きさはここではあまりないと考えている。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none">● これからの拠点は、商店街や公共施設がある拠点というよりも、暮らしを中心とした形に考え方の転換をする必要があると思う。 |
-

第2編（交通戦略）について

- 委員 ● パッケージ内に同じ施策が何回も出てくるので、工夫してほしい。
- 委員 ● 公共交通の問題は、過疎地の問題ではなく都会の問題になっている。危機意識を市民と共有したうえで、路面の整理とか動線の整理ではなく、その上を動く媒体をどうするのかというマネジメントの話だと思うが、そういう運用面の問題はこの計画でどう扱われるのか。
- 委員 ● 公共交通を軸とした交通体系というのは、市民が使える交通体系ということだと思う。その中で一番重要なのは、それぞれのモードごとに事業が運営されていくことではないか。事業運営に対する表現が少ないと感じる。
- 関係主体の果たすべき役割のところ、札幌市がどういう責任を持ってこの計画に取り組んでいくのかが見えない。また、交通事業者の役割においては、今までの手法と違い、経営していくためにはどのような方法を取ったらよいかということを掘り下げていかなければならない時代に入ってきたと思うので、書き込みを追加してほしい。
- 委員長 ● いろいろな補助制度があるが、地域の公共交通計画をどう立てるか、地域の声をどう吸い上げるかという議論がある。進行管理の部分に推進体制が書かれているが、もう少し戦略としての考え方を示す必要があると思う。
- 事務局 ● 基本方針の中に、3つのバランスを考慮することとしており、「整備と活用のバランス」の中に、経営の視点で今あるものをどう生かすのかというのも一つのバランスとして取り入れている。
- 「役割のバランス」では、それぞれの交通モードをいかに活かしていくか、維持していくかという視点で、行政、市民、交通事業者のバランスを考慮することとしているが、都市経営や事業経営などの観点でどうすべきなのか、もう少し充実させていきたい。
- 委員 ● 運営マネジメントについて行政ができることは限られていて、利用するには対価を払ってもらわなければならない、バスなどの民営化された事業者に対して行政が言えることには限界があり難しい。
- 今、市民は言いたい放題言っていて、何でも言えばいいと思っている人が多い。そういう人にも対応していかなければならないことを考えると、当たり障りのないことしか書けないのではないか。
- 委員長 ● 市民のニーズをどうやって事業者伝えていくかということを、一般論ではなくもう少し具体的に書き込んだ方が良い。
- 委員 ● 基本理念で公共交通を維持することが大事だと言っておきながら、拠点まちづくり支援パッケージ等を見ていくと、薄まっている印象を受ける。例えば、バスの維持に関しては便数を維持するのではなく効率的な運行をしながら路線を維持するなどといった工夫があると良い。
-

参考資料（ペルソナ）について

- | | |
|-----|---|
| 委員 | <ul style="list-style-type: none">● ペルソナの想定は非常に身につまされる思いであり、公共の乗り物に乗る心配を考えると、この想定どおりになるのではと説得力がある。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none">● ペルソナは市民に問いかけをするのに分かりやすいのではないかと考えたものである。将来のことも少し考えてみませんかという投げかけを是非行っていきたい。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none">● 路面電車がループ化または市立病院まで延伸されたときに、どういう使われ方を想定しているのか分かりづらく、利便性を感じない人が多いのではないかと。ペルソナの設定で想定される路面電車の利用モデルを作ってみてはどうか。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none">● ペルソナの例は将来像ではなくて現在起こっている課題なので、我々が現実に関心していることに直面しているという認識に改めてほしい。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none">● 市民に理解してもらうためにも、ペルソナは特定の地域だけでなく、いくつかの事例を挙げるとより身近に感じられる。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none">● ペルソナは、もう少し掘り下げて公共交通での通学問題や地下鉄利用促進などにもつなげていきたいと考えている。 |
-